NPO法人民謡民舞公演実行委員会
通信
第 7 号
発行 2025/2/20
発行ＮＰＯ法人民謡民舞公演実行委員会
発行人編集人
三宅良二
〒267-0053
千葉市緑区高津戸町
309-44-305
☎043-310-6175

平成三年から続く「津軽民謡新春公演」がお正月二日から三日間開催されました

令和七年一月の公演で三十五年目を迎え二日の公演が百四回目となった「津軽民謡新春公演」が、一月二日三日四日の三日間浅草木馬亭で開催されました。

出演者は、白戸久雄、三浦節法、中澤美喜雄、上村正春、三宅良二、福士豊次佐々木鶴藤、前川慶吾、須藤圭子、石川きよ美内山久子、翔田ひかり、麻生みどり、おもだか秋子、菊川雛子、朴俊希、勝田正子、鈴木久子、内海叶子。津軽三味線、福士豊美香、髙宮絲觀、栗原武啓、二代目佐々木光儀、澤田響紀、棚瀬敬太、二代目原田英昌。尺八は米谷智、山根菁童、印南栄翠。手踊り、増田龍鳳、宇野きん弥、江口和子土屋松枝、宮坂あさみ、小熊晴麗、龍鳳会きん弥会の皆様、司会は藤四四三（順不同敬称略）総勢四十名の皆様にご出演頂きました。ありがとうございました。

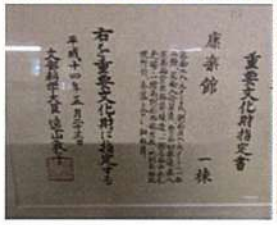
故浅利みき先生、故成田武士先生の「お正月に故郷に帰れない方々に、ふる里を感じて頂けるよう」「オラ達、舞台で唄ってねば、ただの人だ」「みんなでチケットを売って舞台を作ろう」の意志を引き継ぎ、お客様には、この津軽民謡新春公演を観ないと正月が来た気がしない。また出演者には唄い初めの舞台として、今後も皆様に愛される公演になるよう、試行錯誤を重ねて行きたいと思います

舞鶴飛龍

秋田県小坂町　明治の芝居小屋『康楽館』に行ってきました

令和六年十一月八日から二泊三日で親睦旅行を兼ね、岩手県雫石町、秋田県小坂町の「康楽館」に行ってきました。今回の公演旅行は南部相撲語り部協会（高橋多美雄会長）と協力して計画実施されました。

行きの新幹線が遅延し、盛岡の待ち合わせに数名、間に合わないというハプニングもありましたが、鶯宿温泉の宿赤い風車に全員到着。鶯宿温泉は岩手県雫石町にある温泉で天平年間に発ありますので、約千三百年の歴史があるようです。翌日は町内の中央体育館で相撲甚句と一緒に民謡民舞を披露致しました。終了後、秋田県小坂町にマイクロバスで移動。翌日に備え康楽館を見学。康楽館は、秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山にある芝居小屋。近代和風建築の建物は国の重要文化財。香川県仲多度郡琴平町の旧金毘羅大芝居や、兵庫県豊岡市の永楽館とともに、現存する建物としては日本有数の歴史を持つ劇場。今宵の宿は十和田湖畔のとわだこ賑山亭。炭火焼と温泉を堪能。いよいよ康楽館。客席には農繁期が終わった町内から大勢お越し頂きました。小坂町を唄った相撲甚句と民謡と踊りと、ちびっ子泣き相撲もあり大いに盛り上がった康楽館でした。


康楽館
一棟
重要文化財指定書

第2回相撲甚句
オリコン小坂大会
2024年11月10日(日
入場無料
小坂町康楽館
10:00～12:30予定
相撲甚句で鉱山が遺した小坂町の歴史が蘇る
相撲甚句
曲目　小坂グルメ／康楽館／ゆーとりあ／小坂鉱山…
ゲスト　民謡歌手　三宅 良二（ソニーミュージック）
津軽民謡、南部牛追い唄大会等日本一
他、全国相撲甚句愛好者多勢来演
ちびっこ社会科もあるよ！みんなで学べる
主催　小坂相撲甚句会　共催　南部流角力節語り部協会

最強のエクササイズ「日本相撲協会」公認
相撲健康体操
余興 相撲甚句 相撲健康紙芝居（小学生対象）
2024年11月9日(土)　雫石町体育館 10:30～12:30
〒020-0543 岩手県岩手郡雫石町高前田104　TEL.019-692-5030
入場料無料
【一部】相撲甚句 10:30～11:30
【二部】相撲健康体操実演 11:30～12:30
【紙芝居】小学生対象 11:00～12:00
相撲甚句
相撲健康体操
相撲基本動作（すもうきほんどうき）「12の型」
1. 気鎮めの型
2. 墨手水の型
3. 四股の型
4. 仲脚の型
5. 股割り
6. 仕切りの型
7. 攻めの型
8. 踏ぎの型
9. 四つ身の型
10. 反りの型
11. 均整の型
12. 土俵入りの型
主催　南部流角力節語り部協会
〒020-0132 盛岡市西青山二丁目8-35
担当（高橋）：090－2604－9290

雑感！

元キングレコード制作本部長
満留紀弘

私が三宅良二さんと初めてお会いしたのは「民謡定席」の会場でしたでしょうか。とても若くて、バイタリティーあふれる動きで、大いに感心したものです。色々お話していると、辰年で私と同じ干支とのことで親しみを感じ親しくおつきあいをさせて頂いております。行動力が抜群で、ご自身の芸の幅を広げることに熱心な努力はもちろん、後進の育成、舞台での熱唱・熱演の他、NPO法人としての各種イベントの企画・宣伝にも積極的でいつも頭が下がる思いです。

この頃、ちょっと元気のない民謡界ですが、ベテランから新進気鋭の仲間まで総力をあげて、斯界の隆盛に努めたいと思うこの頃です。

小生は鹿児島県出身。昭和三十七年にキングレコードに入社。今年は昭和百年ですので、あれから六十三年、ご縁あってこの世界にお世話になっています。会社では制作畑で、歌謡曲・民謡はもちろん、幅広いジャンルを担当し、とても良い勉強になりました。

しかし、社会の急激な変化で、趣味の多様化や少子化等も重なり、民謡愛好者の減少にも影響しているようです「民謡ブーム再来」となれば、とても嬉しいのですが、少なくとも皆が笑顔で打ち込める世界であれば、いいなと思います。若い人々の頼もしい活動・活躍を観るにつけ、聴くにつけ、しっかりした考えのもと、着実に拡がりつつあるのかなと感じています。

私達の先人が、永年培ってきた、日本の伝統的文化・音楽・芸術・芸能の中でも、民謡は、一番身近な存在として、常に大衆と共にあり、生活の潤滑油としての役割を、果たしてくれています。そして、この素晴らしい宝物を次の世代へどう引き継いで行くのか、これが我々の課せられた、責務でもあります。

関係者それぞれの立ち位置で、問題意識を共有し、大いに力になって頂ければ幸甚です。今年は巳年、良い事の多い年だそうです。

好漢　三宅良二氏には、斯界のリーダーとして、力強く羽ばたいて下さい

元気に仲良く　前進しましょう！

内弟子修行終えて東京へ

ビクターレコード専属
須藤圭子

毎年、冬の寒い時期になると内弟子時代の青森の寒さや、巡業で行った北海道を思い出します。

仙台出身の須藤圭子と申します。父は菅井兆月、母は菅井兆春で民謡一家に生まれた私が民謡を唄うようになったのは自然な流れのようでした。

父は最初東北民謡の育ての親と言われる後藤桃水先生に教わっていたようですがその後松元木兆先生に師事し、そこで母親と出会ったそうです。父はビクター専属でLPレコードを三枚出したこともあり、その縁で私自身も同じビクター（公益財団法人日本伝統文化振興財団）でお世話になっています。小学五年生から東北放送の公開録音ラジオ番組「民謡でごきげん」に出演させて頂き、その当時の司会は白井幸子さんでした。その番組によくゲスト出演してたのが須藤圭助師匠です。「秋田は若い女の歌い手が多いが、青森は少ないから津軽さこねが」と言われました須藤圭助師匠は、唄って笑いの渦を巻き起こす東北のお笑い芸人と呼ばれ、第十七代青森県民謡王座になられた方で青森県でも大変人気がありました。そんな先生からのお誘いです。思い切って昭和五十九年仙台を離れ単身、青森に津軽民謡を勉強をしに行きました。内弟子ですので先生の家で一緒に住んで、家事をし、一緒にご飯を食べ、お米とリンゴ農家でもありますので、春は田植え夏は田の草取り秋には稲刈り、リンゴの木の手入れや収穫等々、民謡の他にも勉強させて頂きました。じょんがら節に唄われる歌詞に出てくる津軽の情景です。巡業で北海道にはよく行きました。北海道巡業にはワゴン車三台で行き、お客様の送迎もやっていました。宿泊もホテルは少なく、

昼間興業をした会場に泊まることもありました。先生は楽屋、男性陣は座敷、女性は舞台に貸布団屋さんから借りた布団を敷いて。お風呂は温泉。お話の上手い方がおられ普段は笑わせてくれるのに、ある時にはその泊まるところで怖いことがあって幽霊が出る、そんな話をされ怖くて眠れなかったこともありました。十代で純情でした。

青森県民謡王座決定戦で第三十四代王座（当時十代の王座は初めてだったそうです）になった後、ビクターのディレクターの高田剛さんの勧めでNHKのオーデションを受けました。早めに着いたことで初めてNHKの食堂に行きましたら当時人気絶頂の松田聖子さんがカレーライスを食べてました。私も同じカレーを食べようとしましたら、高田さんから「唄う前は辛いもの食べないほうがいいよ」と言われ、他のものに変えたことを思い出します。オーデションでは結果発表の前に一人一人に講評があり、私の講評では、伴奏をしてくれた姉の美栄子（井上成美先生のもとで三味線修行をしていました）のことが「唄を活かす、いい三味線だ」と褒められただけで、私の唄にはひと言もコメントはありませんでしたが、結果は高田さんの助言と、姉の伴奏のお陰もあってか一回目の挑戦で合格しました。

昭和六十三年、二十歳でデビューしたことを機に五年間の修行を終え弟子あがりをさせて頂き仙台に帰りました。その後も北海道とは縁があり、釧路のホテルに行った時、たまたま、ディナーショーで来られた岸千恵子先生にお会いし「東京においで。私の前に唄ってくれ」と上京するように誘って頂きましたが、その時は弟子あがりしたばかりでお断りしました。その後、岸先生は須藤圭助師匠にも連絡され、「弟子にするんじゃない。歌手として東京に呼んでいる。私の前座で唄って欲しい。アパートも給料も用意する。名前も須藤圭子のままで」とお話されたようで、須藤圭助師匠にも勧められ、上京することにしました。当時の岸千恵子先生は「笑っていいとも」「紅白歌合戦」にも出演される大変な人気でした。色々なところで唄わせて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。三年契約の満期を機に独立し活動を始めました。

コロナ前までは毎年北海道巡業に呼んで頂きましたが、その後はプロダクションがなくなったりと、行く機会がなくなりました。巡業に行けば一か月、家を留守にすることがありましたが、それもなくなりました。そんな時に民謡を教えてくれとのお話があり、住んでいるマンション一階の集会室で民謡教室を開くことになりました。生徒さんたちは人生の先輩ばかりで教わることも多いです。津軽民謡ばかりでなく、改めていろいろな民謡を勉強中です。先日、日民の少年少女大会で「子供のころ圭子ちゃんが宮城野盆唄を唄ったプログラムがあるよ」と。昔のことで全く記憶がありません。

初めてのことで、まとまりの無い文章になりましたが、私のこれまでの人生を振り返るいい機会になりました。ありがとうございました。会場等でお会いした時には気軽にお声をお掛け下さい。どうぞよろしくお願い致します。

（菅井兆月　東北民謡集）

（デビュー曲　青春じょんから）

きよ美に改名しました！

日本コロムビアレコード専属
石川きよ美

皆様お変わりございませんか今年もどうぞ宜しくお願い致します。

一昨年思い切って「石川喜代美」から「石川きよ美」に改名しました表記をひらがなに変え「優しい感じになりましたね」と皆様からのお言葉、嬉しいです。

出身は神奈川県のほぼ中央部にある大和市です。国鉄に勤める父親と優しい母親のもとに生を受けました。父親は民謡が大好きで当時国鉄の民謡部に入り、父が唄う「北海盆唄」の唄囃子が私の初舞台です。父と妹と一緒に民謡と細三味線を始め、十六歳の時、父親の勧めで当時大和市内で活躍されていました津軽三味線小山流小山貢竜先生の門をたたきました。家でお三味線を弾いたり唄っていると、近所の方々が「私にも教えて教えて」と自然に集まり、何箇所かお教室を開きました。

昼間は農協に勤め金融の窓口業務。退社時間には、パーティーの余興に駆り出され、小山貢竜師匠が車で農協まで迎えに来てくださり、そのままホテルの会場に直行していました。今思えば我がままな職員でした。農協の皆さんにはお世話になりました。今と違い景気も良く、気持ちにもゆとりがあったのでしょうか。

二十歳で農協を辞めることになった時勤め先の皆さんは民謡が忙しいからだろうと思っていたようでしたが、実は寿退社で驚いていました。

小山貢竜師匠には三味線だけでなく、津軽民謡や東北民謡の唄もご指導頂きました。二十年程前に民謡定席で斎藤京子先生に出会い、民謡で言う西ものをご指導頂くようになりました。菊地恵子先生にはよく舞台に呼んで頂き、いろいろ勉強させて頂きました。また秋田の小野花子先生ともご一緒させて頂く機会があり舞台袖で唄う姿・発声や息づかいなど盗め。が貢竜師匠の口癖でした。直接教えて頂いたことや、先輩方の舞台を見させて頂いたのが、私の財産になっています

今は、小田原市の居を構え、後援会も作って頂いて、夏の石川きよ美コンサートと、冬の箱根湯本富士屋ホテルでの石川きよ美まつりランチショー等々で民謡を楽しんでいます。小田原は古くからの城下町で落ち着いたところです。箱根の温泉にも、海にも近く本当にいいところです。ぜひお越しください。

この民謡民舞公演実行委員会には須藤圭子さんに誘って頂きました。斎藤京子先生に教えて頂いた安来節も、持ち唄になるようもう少し勉強したいと思っています。これからも民謡を楽しんで唄っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

まだ九十才

安井喜久子

安井喜久子と申します。昭和九年生れで今年の七月には九十一才になります。最近、人生百年時代と言われますが、思えば永く生きていたようですが、アッという間、という気もします。

幼い頃、父親は警察官で駐在所勤務でした。生まれた時は当時東京都下の狛江市でしたが、三鷹市牟礼、下連雀、新川等、二年毎の転勤で、その都度引っ越ししていました。中学校は調布市にある桐朋女子中学校。桐朋学園は小澤征爾さんや高嶋ちさ子さんなど、世界的な音楽家を輩出した音楽専門の学校で、当時もピアノが何台も並んでいたのを覚えています。高校は都立武蔵と呼ばれていた東京都立武蔵高等学校でした。男女共学の一

号のような高校でした。

卒業後は高校の先輩に誘われ大手の生命保険会社に就職。百人応募して採用されるのは数人の狭き門でした。当時東京駅の近くにあった本社に通勤し、その後本社が新宿に移転し部長の秘書をしていました。歓迎会では皆さんが手拍子に合わせて民謡を唄われていました。今のようなカラオケの無い時代です。私も民謡を覚えないと、と思い会社の民謡部の入ったのが民謡との出会いです。当初は福島県ご出身の山田さんという会社の方に指導頂きましたが転勤され、その後に来られたのが山田さんの同級生で、当時上京されたばかりの原田直之先生でした。原田先生にはお世話になり今の練馬区のお住いの、前のお住まいにお邪魔したこともありました。

三十歳まで独身でしたが、同僚の紹介で主人と出会い結婚しました。結婚した後、主人が言うには「この人と結婚したら、お金が掛からないだろう」と。当時の私は化粧っけもなく、派手な服装も嫌いで、質素な身なり。それが気に入ったようでした。主人は映画の日活の入社試験に合格したくらいの男前で、話題も豊富で話しが上手で、よく笑わせてくれる人でした。が結婚すると失業。その時は私の実父が世田谷区役所に勤めており、同じ職場に潜り込ませてくれました。主人は持ち前の社交性で、上役にも重宝がられ忙しく働いていました。帰宅が深夜になることも多く、やきもきさせられ実家に何度も帰って両親を心配させたこともありましたが、私が交通事故で足を複雑骨折して五十日入院した時には毎日のように見舞いに来てくれ、身の回りの世話をしてくれました。また、主人の実家に帰った時に「子どもの生めない嫁は嫁じゃない」と姑に言われたとき、主人が「俺が好きでもらった嫁だ。てめえらに文句は言わせない」と「子どもが欲しくて一緒になったんじゃない。お前が好きで一緒になったんだ」とかばってくれた時には、今まで苦労させられたのを忘れたかのように、この人と一緒になって良かった、と嬉しい気持ちになりました。ちょっとのろけてしまいました。

主人の定年退職を機に、主人の生れ故郷の群馬県富岡市に移り住みました。群馬での生活は主人と旅行をしたり、ドライブしたり近所を散策したり、噺家顔負けの話術で笑わせてくれ、穏やかで充実した生活でした。

そんな中、十五年程前主人が、ちょっと身体の調子が悪いと病院に行きましたら、余命三か月と診断され、三か月後にアッと言う間に逝ってしまいました。主人が亡くなって群馬に居ずらくなり住み慣れた多摩に戻り、今は東久留米市に住んでいます。

民謡は、津軽三味線や津軽民謡など色々唄ってきましたが、今は安来節にはまっています。民謡は生きがいになっています。

主人と同じ群馬県出身の偉人、渋沢栄一さんの名言、「四十五十は洟垂れ小僧六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ。」追い返しました。まだ九十才。これからもよろしくお願いいたします。

鶴家美枝の 房総のうたつれづれに⑥

⑥房総伊勢音頭（千葉県勝浦市）

住吉さまの吉のひめますおめでたや
（オヤサノ　ヤートコセー
　ヨーイヤナ
アリャリャンアリャリャン
コレワイショー
サノヤーレサノー　サーエ）
（以下各唄が終わる毎）
オヤオヤ　ここのナ　オ背戸に
　岩井戸掘って（サーヨイトショ）
　水もコラ沸く沸くヤンレ黄金沸く
（以下唄囃子）
オヤオヤ今度のナこの町へ
　お湯屋が出来て（サーヨイトショ）
　オヤ十六七なる姉さんが
（ハドーシタ）
　さらしの手ぬぐい肩にかけ
（ハドーシタ）

しゃぼん箱をば手に持ちて
（ハドーシタ）
風呂屋の前にと立ち止まり
（ハドーシタ）
コレ申しもうし番頭さん
（ハドーシタ）
お湯はどうじゃと聞いたなら
（ハドーシタ）
お湯はただいま抜きました
（ハドーシタ）
抜いたお前はん良けれども
（ハドーシタ）
抜かれた私の間の悪さヨ

オヤオヤ私しゃ房州のナ勝浦育ち
波も荒いが気も荒い
オヤオヤ伊勢へ七度熊野へ三度
今朝の詣りも誕生寺
オヤオヤあまり長いはお客様たいくつ
先ずはここらで止めましょう

伊勢音頭の由来

全国各地に唄い継がれた伊勢音頭の一節に「伊勢へ行きたい伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と唄い継がれてきた「伊勢音頭」は、江戸時代頃より伊勢参詣が盛んになり、特に願人坊主（徒師）達により、この伊勢節なるものが唄い広められて行きましたが、行くことが叶わなかった人々には、より一層の憧れの思いを抱かせたことでしょう。あこがれの地で習い覚えた「伊勢音頭」をお伊勢参りのお土産としてふる里に持ち帰り全国各地に広まり長い営みの歴史の中でそれぞれの地域で郷土色豊かにその芽を育て、今も各地で唄い継がれています。

今回ご紹介します「房総伊勢音頭」も勝浦地方で唄い継がれ、伊勢の名残りを残しています。

平成九年、千葉県勝浦市貝掛在住の黒川義雄氏を訪ね、取材し伊勢音頭を教えて頂き、普及しやすいように三味線を付けて「房総伊勢音頭」とし発表しました同年十一月八日伊勢音頭の発祥地、三重県伊勢市の観光文化会館で開催された「伊勢音頭里帰り大会」に「房総伊勢音頭」で唄、三味線、笛、太鼓、踊り総勢二十一名で参加、出演し全国の参加者にも好評でした。

房州伊勢の宮　天津神明宮

祝 宮本星宝舟さん 功労賞を受賞

宮本星宝舟先生が（公財）日本民謡協会より功労賞を受賞されました。

宮本星宝舟先生は長野県生れ、昭和四十八年より房星会に入会し向山房星師に師事、平成十一年より会を継承し後進の指導はもとより地域での民謡普及と併せて、平成二十七年から西東京連合会副委員長の任に就き、民謡民舞の発展に対し尽力しているところからこの度功労賞が送られる。（日本民謡協会令和六年度のプログラムより抜粋

令和四年六月発行の「通信二号」にも寄稿頂きました。

さる十二月十五日正午より、数十年来お付き合いのある、新宿区若松河田駅前近くの中華料理「梅香苑」において祝賀会が開催されました。

当日は房星会の会員の皆様や、民謡のお仲間が出席し、美味しい中華料理に舌鼓を打ちながら、懐かしいスライド写真を見たりと、お祝いの宴が催されました。おめでとうございます。

「何も知らず、お姑さんから勧められた民謡で、多くのお仲間ができ、優しい家族に囲まれ、仲良く声を出して笑い合う。今、健康で過ごせるのも、民謡のお陰です」と
益々健康で、民謡を楽しんで頂きたいと思います。

民謡の唄ばやしの語源 実は！

何気なく唄っています民謡の唄ばやし。中にはその唄ばやしが曲名になっている民謡もあります。

最近はネットの発達で色々な情報が見れる本当にいい時代になりました。そこで、民謡の唄ばやしに、実は「ヘブライ語」に由来しているものがあるという説があるのをご存知でしょうか。

大昔のことで、なかなか確かめることは出来ないでしょうが。

日本の民謡はもともと地域地域の風習から生まれ、農作業などの力仕事の単純作業を仲間と意気をあわせたり、気をまぎらわせるためや、子守りなどをしながら歌っていたものが、自然と歌になっていったと言われています。

今では、三味線や尺八や太鼓の伴奏ありますが、もともとは楽譜という楽譜がなく、かつてはアカペラで、手拍子だけで唄う民謡がほとんどだったようです。

酒屋唄は、歌詞の順番が決められ、作業工程の時間をはかるタイマーだと言う方もおられます。

例えばソーラン節の「ヤーレンソーラン」「チョイ」　ヤサエーエンヤーサアノドッコイショ」日本語でこれを説明できる人はいないのでは。少なくとも私は今まで聞いたことがありません。地元の漁師さんに聞いても、おそらく「昔からそう唄っているから」と答えるだけで、判らないのでは。

ヤーレン：「喜び歌う」
ソーラン：「一人のリーダー・船頭」
チョイ　：「行進する」
ヤサエ・エンヤン：「まっすぐ進む」
サー　　：「嵐」
ノ・ドッコイショ：「神の助けによって進んでいけるように」

「船頭が喜び唄う」「たとえ嵐が来てもまっすぐに、神の後押しによって進んでいけますように」

大相撲の行司さんの言う「ハッケヨーイノコッタノコッタ」。日本語の解釈には少し無理があるように思いますが、これもヘブライ語では不思議なことに意味を持っているように思えてしまいます。

ハッケ：「投げつけろ」
ヨイ　：「やっつけろ」
ノコッタ：「投げたぞ」

相撲の世界で唄われる相撲甚句の掛け声で使われる「どすこい」という言葉。「ドス声」が起源だという説もありますが。

ヘブライ語が起源ではという、縄文時代にまで遡らないとわからないような大昔の話で、いずれにしても証明することは困難なことですが、そのくらいの太古の昔から唄い継がれてきた、民謡を私たちが今、唄っているという想像もつかないような永い月日を経て今に繋がっていることに、悠久の月日を感じます。信じるか信じないかはあなた次第です。

民謡民舞の祭典
春の華まつり二〇二五

日時　四月十九日(土)
開演十二時半
（開場十二時）

会場　亀戸文化センター
カメリアホール

発足記念公演から数えて十一回目の公演になる今年度の「民謡民舞の祭典　春の華まつり」まだ受け付けております。どうぞ申し込み下さいますようお願い致します。

尚、作成しましたチラシは、会員の皆様や過去にご出演頂きました方のお名前を掲載させて頂きました。変更の場合がありますことご了承下さいますようお願いいたします。

同封のチラシの裏の申込書にてチケットを、お申し込み下さい。よろしくお願い致します。

◇出場者大募集

第三回千葉の民謡を唄おう
『民謡日本一選手権』

日時　六月一日(日)開催
会場　船橋市勤労市民センター

◇『千葉の民謡の部』
◇『全国の民謡の部』

趣旨　民謡を通じて郷土文化、地元産業を広く全国に知らしめ、合わせて地域社会の福祉及び情操教育の向上に寄与することを目的とします。

出場資格　プロアマ問わずどなたでも出場できます。

演奏時間　二分程度

募集人員　合わせて二百曲

出場申込料　一部門の場合は五千円。両方の部門にエントリーできます。その場合九千円。

表彰　「千葉の民謡の部」優勝者には千葉県知事賞
「全国の民謡の部」優勝者には習志野市長杯
各部門優勝盾、賞状
各部門二位十位　賞状
副賞　千葉県産お米

同封の申込書にて申し込み下さい。宜しくお願いいたします。

第一回第二回の大会の反省を踏まえ準備を進めております。ご協力下さいますようよろしくお願いいたします。

◇みんなでCD制作
参加者募集のご案内

いつか、一度は記念にレコーディングして形にして残してみたい。永年民謡や三味線をやっていたら、みんな思う事です。一人で、その費用を負担するのは大変なことです、が、みんなで共同制作すれば、少ない負担で制作できます。そこで、今回、共同で、CD制作することを計画しております。ご参加頂ける皆様を募集しております。改めてご案内申し上げます。

◆レコーディング参加費について

今回十名から十五名程度募集しております。費用は参加人数により、多少変更する場合がありますが、各々CD百枚で、十八万円程度を予定しております。

編集後記

巳年の今年も明けて早二月。月日の過ぎるのが速いこと。年々そう感じることが多くなってきたように思います平素は本法人の活動にご支援とご協力を賜り誠に有難うございます。お陰をもちまして設立してもうすぐ丸四年。五年目を迎えます。今年も「民謡民舞の祭典春の華まつり二〇二五」「第三回千葉の民謡を唄おう民謡日本一選手権」「秋の旅行」等々計画しております。ご協力下さいますようお願い致します。

さて過去の巳年の出来事を調べてみますと昭和四十年、いざなぎ景気、初の宇宙遊泳に成功、昭和五十二年、王選手がホ｜ムラン世界記録を達成、ダッカ日航機ハイジャック事件発生、昭和六十四年、昭和天皇の崩御、天安門事件発生、ベルリンの壁崩壊、平成十三年、同時多発テロの発生、平成二十五年、アベノミクス始動。

いいことばっかりじゃない、悪いことばかりでもない、いいことも悪いこともあるのが世の中。ヘビは脱皮を繰り返し成長することから、「生命力」や「再生」を連想させるようです。

今年はどんな年になるのやら。

不定期で発行しております会報、七号にも寄稿頂き有難うございました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。充分に注意したつもりですが、誤字脱字等がありましたらお許し下さい。次号は七月か八月の夏頃を予定しております。テ｜マは何でも結構ですし民謡民謡に関することでも結構ですし民謡以外の事でも大歓迎です。我が人生、思い出、最近の出来事等々寄稿下さいますようお願いします。引き続きご協力下さいますようよろしくお願いいたします。いずれにしても今年一年が笑って終わるような一年になるよう祈念します。まだまだ寒い日が続いております。どうぞご自愛下さい。

（三　宅　良　二）